

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年4月7日

事業ID:2024001032

事業名:妊娠SOS相談窓口の運営

団体名:(特)妊娠しえとSOS

代表者名:代表者 氏名 小林 智子

TEL:080-5622-2033

事業完了日:2025年3月31日

■契約時

事業費総額	:	9,000,000 円
自己負担額	:	1,800,000 円
助成金額	:	7,200,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	8,047,118 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	1,610,118 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	6,437,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	763,000 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 妊娠SOS相談窓口の運営・継続
(1)時期:2024年4月~2025年3月
(2)場所:岡山県岡山市北区
(3)参加者:複数名(助産師、保健師、公認心理師、社会福祉士、精神保健福祉士等)
(4)内容:電話・メール・SNSによる相談、同行支援、運営会議、広報活動

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 妊娠SOS相談窓口の運営・継続
(1)時期:2024年4月1日~2025年3月31日
(2)場所:岡山県岡山市北区
(3)参加者:10名二人体制で実施(助産師6名、保健師1名、公認心理師1名、社会福祉士2名)
(4)内容:電話相談(毎日14時~20時)、メール相談(24時間)の他、面談・同行支援にも対応
運営会議5回・情報交換会5回・事例検討会不定期開催(全妊ネットスパーバイザー助言)・主催研修開催1回・緊急時対応マニュアルや参考資料作成、相談員名刺追加作成、
・広報活動:ホームページ随時更新、SNS随時配信
Instagram(投稿206件/フォロワー301件)、
X(フォロワー71件)、チラシ3000枚・カード1万枚・パンフレット500枚、
・メディア対応:ラジオ出演2回、新聞掲載2回、雑誌記事2社、web取材2回、イベント会場等パネル展示3回
・その他:会員・寄付活動(Amazonみんなで応援プログラム)

(3)成功したこととその要因

相談員全員の情報共有により共通認識が図られ、運営がスムーズに捗った。広報活動を積極的に広められた。行政・民間団体問わず多様な連携先の拡大が図られたからこそ、団体の周知がいさわたり関係者からの支援が増えたと思われる。また、全妊ネットの伴走支援や日本財団の担当者の方のご支援によるものとする。特に、事業の仕分けや予算の見直しなど修正変更ができたこと、事業内容を再確認できたことなど、振り返ることでき希望した運営が整ってきた。

(4)失敗したこととその要因

特になし

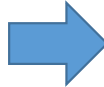
(5)事業内容詳細

※添付資料(事業内容1:相談集計・図表)

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 居場所提供の運営・継続
(1)時期:2024年4月～2025年3月
(2)場所:岡山県岡山市北区
(3)参加者:危機的妊娠をした居所のない妊婦
(4)内容:緊急一時宿泊者の受け入れ



(2)事業内容の実施(完了)状況

2. 居場所提供の運営・継続
(1)時期:2024年4月1日～2025年3月31日
(2)場所:岡山県岡山市北区(非公開)
(3)対象者:危機的妊娠をした居所のない妊婦
(4)内容:緊急一時宿泊者の受け入れ
一時宿泊(年間 約120日)のスペース確保と準備、環境の整備、個室2部屋、生活支援員2名体制準備
・居所利用者3件、計141日宿泊、日帰り利用者1件
・居所用マニュアル等の見直し・改善
・緊急時対応マニュアル作成の見直し
・入居対象者の入居前後のアンケート作成と実施
・入居対象者のアセスメントシートの作成と見直し

(3)成功したこととその要因

・多職種によるそれぞれの専門性を活かした支援を実施できたこと。
・様々な問題を抱えた対象者に、どの相談員もが共通認識のもと、支援対応に努められたこと。
・行政や福祉関係、NPO団体など関係機関と顔の見える関係であり、やり取りがスムーズであった。
・各ケースいずれにおいても、行政も把握していたリスクの高いフォローケースでもあったため、受け入れ宿泊に繋がったことは、本来の目的に達し成功したと考える。
・岡山県女性相談センターの「困難女性の緊急一時保護」委託の契約ができ、1件入居となった。

(4)失敗したこととその要因

失敗はないが、「困難女性の緊急一時保護」委託に関しては、運営上何かと負担が大きいと、1件のみの受け入れで十分であった。今後、受け入れ人数は検討課題としたい。

(5)事業内容詳細

入所3件(141日)
※福祉手続き・医療機関への同行支援・退所後の居住地や物件、生活用品等の準備等支援・分娩準備等について支援対応。
また、退所後も、対象者の希望や必要に応じて支援対応。
<ケース>
1. Cさん:10代 35週 5月2日～6月4日(34日)※岡山県女性相談支援センターから困難女性一時保護委託ケース
・パートナーにお金を取られるなど経済的DVを受けていた。親からも家出中。軽度知的障がい。
・陣痛発来まで入所。出産後は母子生活支援施設に入所し退所後は他県祖父母宅へ転居(本人養育)
・同行支援37回
2. Rさん:20代 11週 9月10日～11月8日(60日)
・親との関係が不安定で、頼れない。月数回のバイトをしながら男性宅や友人宅を転々としていた。療育手帳所持。
・妊娠中にアパートに転居。他機関と行政関係機関連携フォロー中。その後出産し入院中(本人養育)
・同行支援8回
3. Sさん:20代 24週 12月29日～2月13日(47日)
・つわりで働けなくなり、家賃を滞納。退去を命じられたが、身寄りがなく行くところなくなる。
・妊娠中にアパートに転居。他機関と行政関係機関連携フォロー中。(特別養子縁組予定)
・同行支援15回

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

3. 協力者と地域ネットワークの体制の構築
(1)時期:2024年7月～2025年3月
(2)場所:岡山県岡山市北区
(3)参加者:50名(医療・保健福祉・教育関係等の専門職)
(4)内容:研修、意見・情報交換等

(2)事業内容の実施(完了)状況

3. 協力者と地域ネットワークの体制の構築・強化
(1)時期:2024年4月1日～2025年3月31日
(2)場所:岡山県岡山市北区
(3)参加者:医療・保健福祉・教育関係等の専門職
(4)内容:
・団体主催研修(基調講演&シンポジウム)開催、参加者人数56名
・意見・情報交換等、その他
・全国妊娠SOSネットワークの情報交換会参加
・倉敷男女共同参画代表者会議参加
・あいネット倉敷主催研修にて発表
・岡山県女性相談支援センター交流会参加
・日本子ども虐待防止学会かがわ大会参加
・オレンジリボンフォーラム岡山市パネル展示
・2025「透明&コールドトリホンFESTA inかがわ」にて、パネル展示と講演発表、他

(3)成功したこととその要因

団体主催研修(基調講演&シンポジウム)開催に際して、全国妊娠SOS ネットワークの研修企画が遅れ、申し込み予約が、取れず今年度も開催できなかった。しかし、別企画として、全国妊娠SOS ネットワークの講師による地域連携の研修を開催することが出来た。また、県内外で団体発表が実施できたことは、積極的な団体活動や広報により県内外へも幅広く周知がなされたことや、関係機関や団体とのネットワークが構築されたものとする。県内外での研修参加や発表時に、関連機関の関係者や、他の団体相談員との情報交換や連携がさらに深められた。
・研修会参加やイベント(中高生居場所カフェでの相談会、学会や他団体との交流会、他)に参加できたこと。
・県や市の行政機関(県子ども家庭課、岡山市母子関係、倉敷市男女共同参画課、他)との意見交換会や情報交換等に参加したこと。

(4)失敗したこととその要因

特になし。

(5)事業内容詳細

※添付資料(事業内容3:ニュースレター第2号)
※添付資料(事業内容3:団体主催研修会チラシ)

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

4. 虐待の未然防止のための性教育・啓発活動
(1)時期:2024年4月～2025年3月
(2)場所:岡山県内の中学校・高校・大学、企業や団体等
(3)参加者:学生や若者、支援者
(4)内容:性教育や緊急避妊等の啓発、妊娠検査薬の無償配布

(2)事業内容の実施(完了)状況

4. 虐待の未然防止のための性教育・啓発活動
(1)時期:2024年4月1日～2025年3月31日
(2)場所:岡山県内の中学8校、高校6校、大学2校、岡山市内公民館1、香川県イベントブース展示会場1
(3)参加者:学生、教員、養護教諭、保護者、一般、支援者、メディア関係者
(4)内容:緊急避妊等の啓発、チラシ・カード配布
・性教育の実施:18箇所(うち学校16校)
参加者人数合計1828人(うち学生1692人)
・妊娠検査薬の無償配布:5か所(倉敷あいネット・岡山市オレンジリボン・岡山児童虐待事例研究会・しえるとクリスマスイベント「つながりカフェ」・岡山県立倉敷準備支援学校)
・講演発表:2025「透明&コールドトリホンFESTA inかがわ」にて講演、クリスマスイベント「つながりカフェ」にて性といのちのお話会

(3)成功したこととその要因

年間20校の性教育を計画し実施校16校+イベント開催時実施2か所=18回開催(90%達成)
相談員個々の性教育講演や授業において、県行政と学校側の許可を得て、しえるとの啓発活動が無理なく取り入れられた。また今年度は、団体のつながりカフェ開催や学生や若者が集まる他県関係機関のイベント会場にて、性や命についての講演が実施できたことの反響は大きいと思われる。

(4)失敗したこととその要因

妊娠検査薬の無償配布について、学校側では、妊娠検査薬を配布することが県教育委員会の承認を得難く、難しい状態である。ただし、関係機関においては、子どもソーシャルワークセンター「つばさの中高校生カフェMUSUBI」での相談場所と団体イベントとして、「つながりカフェしえるとの会」の会場などで配布可能であった。

(5)事業内容詳細

・性教育講演活動:岡山県内の中学6校、高校6校、大学4校、計16校に、しえるとの備品(赤ちゃん人形モデル・妊婦体験ジャケット)を貸し出し実施。事前に「しえると」の相談員に講演を希望した学校7校あり。
・透明&コールトリホンFESTA inかがわ、クリスマスイベント「つながりカフェ」にて、性といのちのお話会開催などで、広報及びカード配布や妊娠検査薬の説明・性といのち、予期しない妊娠についてなど講話や情報提供など。
・全学校にチラシ・カード・三つ折りパンフレット等を配布し、望まぬ妊娠の回避や緊急避妊等について説明、啓発を促している。
※添付資料(事業内容4:クリスマスイベント「つながりカフェ」チラシ)

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

【目標】

1. 妊娠SOS相談窓口の運営・継続
・相談件数(年間 延 約400～500件)
2. 居場所整備・支援の開始
・危機的状況にある妊婦の生活支援として必要に応じた宿泊と居場所の提供ができている(年間 約120 日)
・一時宿泊者年間人数2～3人
3. 協力者と地域ネットワークの体制の構築
・行政や他団体からの相談数30件、情報(ケース)共有した団体数6件、連携の意向20件
4. 虐待の未然防止のための性教育・啓発活動
・実施学校数:20校

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	699	文字数チェック	OK
<p>1. 妊娠SOS相談窓口の運営・継続 ・居所用緊急時対応マニュアル作成の見直し、入居対象者の入居前後のアンケート作成やアセスメントシートの作成。 ・相談件数:電話293件、メール463件、新規196件(延べ781件)・面談20件・同行支援45件(100%達成) ・チラシ3000枚・カード1万枚、パンフレット500枚配布、広報周知、約800件 ・ホームページ、Instagram投稿206件/フォロワー301、Xフォロー毎回収約70 ・メディア参加、ラジオ2回・新聞掲載2回、ニュースレター発行300部</p> <p>2. 居場所整備・支援の開始 ・入居3件(宿泊141日)、日帰り1件、同行支援60回(100%達成)</p> <p>3. 協力者と地域ネットワークの体制の構築 ・行政や他団体からの相談数37件、情報(ケース)共有した団体数145件、連携の意向30件(100%達成) ・運営会議5回、情報交換4回、全妊ネット講師による事例検討会随時開催 ・他団体へ見学:県内(母子生活支援施設)、県外(にんしんSOS広島・にんしんSOS高知みそのらんぷ・未来ISSEYかがわ) ・他団体からの視察:県内(岡山市地域こども相談センター・国際ソロプチミスト倉敷/玉野・議員等、多数)、県外(未来ISSEYかがわ・にんしんSOSぎふ・にんしんSOS高知みそのらんぷ) ・連携会議:関係機関(全妊ネット・日本財団)、女性相談センター、男女共同参画センター、入所者ケース会議 ・県内研修8回参加(団体発表5回)</p> <p>4. 虐待の未然防止のための性教育・啓発活動 ・中・高・大学、その他へ性教育の出前講座18件(90%達成) ・妊娠検査薬配布5か所</p>			

3.事業実施によって得られた成果

<中長期 ※3年後>

- ・妊娠SOS相談窓口の体制が整備され、社会に周知され、危機的状況で妊娠した女性から利用してもらえる窓口になる。
- ・病院受診や関係機関の窓口につき添うことや、居所がなく入所を希望する妊婦には、速やかに居場所を提供する。
- ・妊娠葛藤相談を受けた時点から産後に自立した生活ができるようになるまで、信頼関係をはぐくみ継続した支援を行う。

<最終目的>

- ・妊娠期から子育てへの切れ目ない支援を行うことにより、妊娠や子育ての不安、孤立感等に対応し、子ども虐待の未然防止になる。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

<課題・対応策>

- ・予期しない妊娠により、パートナーや家族、友人との関係が悪化し、孤立し経済的に困窮している妊産婦が多かった。
- ・生育歴において、虐待等により心に傷を負っている様子が見受けられた。
- ・支援を求めることを躊躇する傾向がみられた。
- ・発達に課題を抱えた対象者などでは、自分の置かれた状況を説明するのが苦手な対象者もいる。
- ・入居事例については、3件のそれぞれ異なる課題について全員で共通認識し、対応が異なることを念頭に置いて、それぞれの専門性を活かした支援ができた。
- ・このような課題を抱える妊産婦等の受け入れのため、当団体の存在は重要であることから、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律による一時保護委託を岡山県と契約した。しかし、支援にあたっては、団体持ち出しもあり負担が多少かかってしまった。県の委託事業として大切な事業ではあるが、今後、受け入れ時期や対象者によっては、状況を見て受け入れ調整が必要かと思われる。
- ・出産後は「ひとり親」として、児童扶養手当の支給や母子父子寡婦福祉資金等の生活費用の支援があるが、妊娠中には経済的な生活支援がない。そのため妊娠中に生活基盤を整えることから支援していく必要がある。
- また、入所中のアセスメントを他機関と連携共有し、役割分担明確化していくことが必要である。
- 各機関それぞれの強みを活かすようなシステム作りを希望したい。支援対応はさまざまで、多岐にわたるため、他団体との情報交換も更に密にしていきたい。
- ・24時間365日体制でメール等での相談を受付けているが、若い世代を中心に、課題を抱える妊産婦等の相談窓口の周知をさらに強化する必要がある。団体設立後3年過ぎたが、これまでの振り返りを今後の活動に活かし、LINE相談に取りかかれるよう準備をしていきたい。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

助成契約書記載の成果物名称を転記してください。

【成果物】

1. 妊産婦宿泊時の対応マニュアル等の見直し、関連する参考資料等の改善
2. ホームページ随時更新、SNS(インスタ・ツイッター継続掲載)
3. ニュースレター発行



実際に作成した成果物の名称を記載してください。
※チラシ、ポスター等の印刷物については
作成枚数を追記いただけますようお願いいたします。

【成果物】

1. 妊産婦宿泊時の対応マニュアル等の見直し、関連する参考資料等の改善相談及び入居者対応に関する資料一式
 - ・居所用マニュアル等の見直し・改善
 - ・緊急時対応マニュアル作成の見直し
 - ・入居対象者の入居前後のアンケート作成と実施
 - ・入居対象者のアセスメントシートの作成と見直し
 - ・関係機関連絡先等、その他の参考資料作成複数
2. ホームページ随時更新、SNS(インスタ・ツイッター継続掲載)
公式HP:<https://sheruto.com/>
Instagram:
https://www.instagram.com/sos_sheruto/
Twitter:https://twitter.com/sos_sheruto
3. ニュースレター発行
 - ・第2号発行(300部)

(3)未作成となった要因

契約時の事業成果物で作成していないものがある場合は理由を記載してください。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください↓

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/gra_gui_32.pdf

(なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

上記で登録したURLをご記載ください。

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1100717535>